

算数

小学校 第5学年

OS・ソフト等

- iPad
- ロイロノート

<単元・題材名等>

分数のたし算とひき算を考えよう

ねらい

協働学習支援ツール（ロイロノート等）を活用した学習を通して、「通分」の用語とその意味、方法を理解し、通分して分数の大きさを比べることができるようにする。

主なICTの活用方法

- ・ ロイロノートの共有機能を使って、自分の考えを仲間に伝えたり、仲間の考えから理解を深めたりする。
- ・ ロイロノートで配付された資料に自分の考えを書き込み、考えを形成する。

ICTを通じて育成する資質・能力

- ・ 協働的な学びを通して、仲間と協力して活動することができる。
- ・ 自分の考えを整理することができる。
- ・ 自分の考えと仲間の考えを統合することができる。

実践の概要

理解度や定着度に合わせて学習を進めることができるように指導を行っている。その中で、通分の仕方である「分数どうしをかけて考える方法」と「最小公倍数で考える方法」のよさを個別指導や全体交流で確認している。「学習内容が分からない」と感じている児童は、自ら仲間にアドバイスを求め、理解を深めるようにしている。その際、質問を受けた児童は、通分の仕方について、ロイロノートを使って示したり、仲間の画面にかき込んだりしながら質問をした児童が理解できるまで説明を行っている。

児童の学びの様子

- 単元内の進度別学習を行う中で、先に学びを進めている児童が、すでに取り組んだ計算の仕方について、ICT 端末のスライドを示しながら説明をする姿があった。
- 教科書に記載されている計算方法について、気付いたことをメモする際に、ICT 端末上で気付いたことを書き込み、それらの情報を学習ノートで整理しながら論理的に思考することができた。
- 分母の異なる2つの分数の大きさを比べるために、通分の方法をICT 端末に書き込みながら仲間に説明する姿があった。
- ロイロノートで毎時間の学習のまとめを振り返りながら、本時の学習内容に関連した計算の仕方を仲間に伝える姿があった。



指導のポイント

- 仲間との対話を中心的な活動とする際、仲間と関わることに苦手さのある児童や内容の理解度に差があることを想定し、互いの状況を確認し合ったり、ICT の共有フォルダ等を利用して、課題解決の手掛かりとなるワークシートを保存したりしておく。
- 単元の目標を児童と共有し、目指す姿に到達するために、個別の学習計画を立て、適宜振り返りを行うようにする。
- ロイロノートを用いて、仲間の学習の様子を随時確認できるようにすることで、自ら課題解決の方法を見いだせるようにする。